

2019年1月

関係各位

福岡陸上競技協会 普及部

全国小学生陸上競技交流大会の競技内容変更に伴う福岡陸上競技協会における取り扱いについて

経緯 2018年11月の全国普及育成担当者会議で、次年度の全国小学生陸上競技交流大会の競技内容の変更が示された。詳細の確定が未だ進んでいないため、現時点（2019年1月）での変更点とそれに関する福岡陸上競技協会での取り扱いを示す。今後、変更点についてはHPや全国交流大会の県予選の要項上で示す予定である。

目的 体力の向上がみられ平行して、基礎体力の向上が望まれている。一方でスポーツは低年齢層に普及しつつある。指導者においては、基礎体力の向上とともに、「走る」「跳ぶ」「投げる」ことの正しい指導が望まれている。

全国交流大会や普及育成担当者会議の趣旨を踏まえ、①低年齢、早期からの種目の専門化防止（多種目の経験積み重ねによる長年、陸上競技に親しむ基盤を作る）、②繰り返しや試技回数の多さからくる障害の防止（同じ動作や同じ種目の繰り返しによる障害や焼き切れ等）を中心に全国交流大会の変更を基盤に、福岡県での小学生クラブの練習や記録測定の方角性を基準として定める。

変更内容

①全国小学生交流大会変更点

a 参加者 小学校5・6年生に該当する年齢で各県選考会を経て選ばれた代表選手14名と指導者3名とする。（支援コーチ4名以内：自費）

b 種目

実施種目		人数	種目数（人）
5年 100m	男女	2	2
6年 100m	男女	2	2
コンバインドA：80mH・走高跳	男女	2	2
コンバインドB：走幅跳・ジャベボール投	男女	2	2
男女混合 4×100mR	混合	6	1
	選手合計	14	9
監督及び指導者		3	
合計		17	

（リレーメンバーの一人でも、他種目に回った場合、リレーチームは全国大会への出場資格を失う。）

・同一人が2種目を兼ねて出場することはできない。（コンバインドA、コンバインドB、リレーも1種目とする。）

・居住都道府県と異なる都道府県でのチーム所属は可能とする。ただし、1人1所属とし、複数所属は認めない。選考会出場も1人1都道府県とする。

c スタート コールはイングリッシュコマンドとする。

【注意】 \*要項上には現時点で示されていないが、以下の方向性や議論が示されている。(具体はまだ)

- ・リレーは男子3人、女子3人のエントリーで、男子2人、女子2人で、走順は任意。
- ・フィールド競技(走高跳、ジャベボール投げ、走幅跳)は、試技数は2回で、走高跳は同じ高さの挑戦は2回とする。(具体は未定)
- ・コンバインド種目の順位決定方法は、混成得点表と思われるが、まだ示されていない。
- ・来年度以降の交流大会種目に中距離走が検討されている。距離は不明(800m~1000m)
- ・ハードル走の規格等については、詳細は不明(これまでと同様か)

- ②県大会の内容
- 1) 全国大会の種目や規定に準じた方法で実施する。(県大会種目も併せ、1人1種目の出場とする。)地区予選の予定はなく、県大会で全国大会の予選とする。  
\*全国大会主催者からの基準による表彰や選考を実施する。
  - 2) リレーは、同じクラブから複数チームの出場を認めるが、上記、規定の1人1種目はそのまま適用する。(補欠選手・決勝不出場者による交流レースを実施する。)
  - 3) 県大会種目として、男女・中距離種目(現時点で800m)をこれまで同様に設定する。 \*表彰は、1位から3位まで表彰する。(賞状のみとする。)
  - 4) その他の県大会種目として、単種目として、男女各(5・6年共通種目として)「走高跳」「80mH」「走幅跳」「ジャベボール投」を開催する。(一人一種目の規定内とし、コンバインド種目等のその他の種目とも兼ねることはできない。)  
\*表彰は、1位から3位まで表彰する。(賞状のみとする。)  
(ただし、これは新年度の変更への移行措置とし、継続に関しては、今後、議論していく。種目経験の少ない参加者の出場機会を増やすための開催とする。単独種目で、コンバインド種目より好成績を出しても、全国選考の対象とはしない。)

### ③各地区で開催の記録会等の開催基準について

各地区陸上競技開催団体においては、以下の点を考慮し、主催者で小学生種目の開催内容を決定する。

\*大会種目を設定するとその勝利に向けて、種目練習を繰り返す傾向があるため、100m走と極力、混成種目で開催する。難しい場合は、単独種目での開催とする。(7月までは5・6年生を対象、8月以降は4・5・6年生を対象に種目を設定する。リレーを含む。次年度への準備のため)

4年生より下の学年は、「50m走」及び「チャレンジ混成イベント」(走・跳・投を含むもので、任意)の種目設定とする。4年生より下のリレーは、各クラブの活動内容とし、競技会では設定しない。

\*順位をつけるために、決勝等を行う必要がある場合は、1人1種目とする。

決勝を行わず、タイムレースや測定結果で順位をつける場合は、100m走・コンバインド種目とリレー種目との重複を認める。(100mとリレーの重複を避ける。)ただし、リレーもタイムレース決勝とし、レース本数を増やさず、身体的な負担を減らすよう努力する。

(交流レースについては、重複でエントリーしていないリレーの補欠者により実施する。)

\* 公認競技会である必要がないため、場所や器具などは、簡易化されたもので可能で、力試しの測定が可能であれば可とする。ハードルなどは、県内で規格の整ったものは、「博多の森」と「鞆ヶ谷」競技場にしかないため、学校の授業等で利用するハードルを利用し、高さ、インターバルを事前に示した形での記録測定会を実施する。

・測定は精度の高いストップウォッチ、伸び縮みの少ないメジャー等利用し、測定し、その場で児童にフィードバックする。場所も競技場内に限らず、運動広場や公園等の平らな土や芝生の安全な場所での実施も可とする。

・測定者は、公認審判員でなくても、協力者の善意にも基づく、公正な判定で可とする。

\* 競技会・測定会の参加料は、陸協規定の参加料とする。200円（2018年1月現在）×1人1種目  
コンバインド種目は、実施種目数を乗ずるので、200円×2種目＝400円（4種目であれば800円）

リレーは、200円×6人＝1,200円（ただし、リレーの補欠者に対する交流レースを設定する。）

\* 記録会として実施する場合は、事前申し込みを必要とし、事前に福岡陸協に申し込んだナンバーカードを使用する。

それ以外で実施する場合は、主催者で事前申し込み、当日申し込みを決め、その手続き方法を明らかにした上で実施する。ナンバーカード等は、必要なくビブスや簡易ナンバーで対応することも可

#### ○記録会に種目を位置付ける場合（地区の体育祭・選手権等）

・上記の基準を参考に開催要項を作成し、種目設定をする。これまでの競技会の種目として、競技会日程の中に組み込み実施する。事前申し込みとし、福岡陸協の発行するナンバーカードを使用する。

・記録会同様の記録発表をする。

・競技参加料を徴収する。

#### ○記録会としてではなく、運動へのチャレンジ会・測定会とする場合

・競技会の中で、時間帯を設定し、測定会やチャレンジ会を実施する。事前申し込み制か当日受付は主催者が決定する。

・記録に関しては、その場で本人に知らせ、記録用紙等に記録させる。

・参加費用を徴収して構わないが、イベント独自の会計報告か、記録会の会計報告と合わせて、収支を報告する。

#### ○クラブで実施するような測定会の場合

・クラブ単独で実施する場合は、費用は徴収せずに、保護者等の協力を経て、測定し、その場で子供にフィードバックし、記録させる。

・クラブ合同で測定会を開催する場合は、開催基準に従い、詳細を決定する。

・福岡陸協のHPに要項を掲載し、多くの参加者が出場可能な状況を作る場合は、主催者は4週間前までに、開催要項を、福岡陸協に要項を送付し、陸協が開催の内容を確認の上、福岡陸協HPに掲載する。

- ・合同で参加者を広く公開し、開催する場合は、参加費用を徴取し、運営費用に充てることを認める。ただし、収支報告をする。

#### ④小学生クラブ運営の方向性について

- 各クラブの設置目的や経緯はあると思われるが、全国大会・県大会等を目指した種目練習や記録測定、大会参加を中心にした活動内容から、様々な運動に親しみ、多様な動きや運動・スポーツができるような内容にする。大会の成果や記録に偏った過熱化した考え方をクラブの運営主体が積極的に改善させるよう児童・生徒、保護者に啓発を進める。(クラブの特徴を「全国大会出場を目指したクラブ」「駅伝を目指したクラブ」などを改める。)
- 一日の活動の中で、「多様な運動遊び」「複数種目の組み合わせ」「簡易化した運動」などの複合種目と、各種のリレー等にする。日を決めた重点練習から、日常からの混成化に努める。
- 混成を基本とした簡易化した運動を積極的に実施する。  
陸連のキッズデカスロン等、○○m走(短めの距離で)、ミニハードル走、○○跳、○○投、等の距離を短くしたり、動きの部分を取り出したりした運動の複合種目などが考えられる。
- 1回の活動時間は、2時間程度とし、何度も繰り返し同じことをしたり、一度にたくさんの距離を走ったりすることは控える。毎日の練習を避け、複数日の休息日を設け、計画的な練習にする。
- 準備運動や整理運動なども併せて、運動の意義や意味を理解させ、児童生徒が自ら考え、選択して運動ができる内容を考える。(そのためにクラブは積極的に公認指導者資格を取得する。また、女子競技者育成のために、女性指導者(公認指導者)の育成を進める。)
- 保護者への各種の情報提供、啓発や研修を行い、正しい運動の行い方や栄養・休養等のバランスなどについても、各クラブで指導する。(保護者向け研修会の紹介やクラブで開催する。)

#### ⑤その他

- まだ全国大会の概要が判明しないため、それにより内容が変化することがある。
- 全国大会出場やそれを目指した専門化を避けるよう、福岡県の小学生指導者クラブで協力して、運営の適正化を図る。
- 直近の大会での成果を子どもや保護者の動機付けにするのではなく、スポーツの価値や豊かな生活に資するものとしての陸上競技の楽しさを伝えるよう各クラブで工夫する。
- 陸上競技は年齢が上がるにつれ、種目が増える特徴があり、トランスファーの可能性が広がる。長く競技生活が続くよう、クラブ運営内容や方法を検討する。
- 福岡陸協普及部等でも各クラブの測定会の容器具や人員の確保のために協力体制を整備(光電管測定システムやジャベボール等の貸し出し:要相談)するとともに、協力者を求めていく。